

津田昇平教話 第五話

令和三年一月五日 朝の教話

過ぎたる悪いことを思い出して苦をすな。

おはようございます。令和三年一月五日をお迎えさせて頂きました。

最近お話をしているのは、信心の稽古けいこということについてお話をさせて頂くことが多いかと思えますけれども、じゃあ具体的にどういう信心をさせて頂いたらいいのか。

信心しておかげを頂く、ただ祈念きねん祈祷きとう、自分がただ拜む、あるいは拜んでもらう、ただそれだけで助かるということではないと。自らがおかげを頂く器を作るということが大事である、という話をさせて頂きました。じゃあどうい信用心をさせてもらったらいいいのか、どうすれば器ができるのか。

それがもう御道おみちの信心全体になってきますので、これをしたらって単

純に言えることではないんですけどねども。でもその中で、端的に教祖様が残して下さる、神様が残して下さってるのが「天地書附」になります。

天地書附の中身を広げていくと、もうまさに、御道の信心全体に全部繋がって来るわけですけども、その中で「こんげつこんにち今月今日」という言葉がよく出て来ますね。やはり、それがものすごく大事になってくる。

いきがみこんこうだいじん
生神金光大神

てんちかねのかみ いっしん ねがえ
天地金乃神 一心に願

わがこころ
おかげは和賀心わがこころにあり

こんげつこんにち
今月今日でたのめい

【天地書附】

こんげつこんにちが

「今月今日」という言葉。文字数としてはそんなにたくさんじゃあ

てんちかきつけ

いみがみこんこうだいじん

しんじう

てんちかねのかみ

ません、天地書附はね。「生神金光大神」っていうご神号、「天地金乃神」

こんたごめ

しんめ

ねがえ

ってっていうご神体名、ご神名。あともうそれ以外は「一心に願」っていう

わがこころ

こんげつこんにちが

のと、「おかげは和賀心にあつ」ってっていうのと「今月今日でたのめい」。

もうすごい短いんですよね。そこに、だからこそ込められているものが

いじれごまつ。

どねをどうしてもおかげを頂く器作りになつてくるわけですけれども、

こんげつこんにちが

「今月今日」というところを少し意識してみると、教祖様は、

悪いことを言うて待つなよ。先を樂しめ。

〔理Ⅲ 神訓しんくん 二・四六〕

というふうにしてご理解下さってますね。悪いことを言うて待つなよ。

悪いことを待つ。先を樂しめ。また違つみ教へでは、

過ぎたる悪いことを思い出して苦をすな。今日こんにちが大切、
先を樂しめよ。

〔理Ⅰ 島村八太郎しまむらはちたろう 四四〕

ね。過ぎた、起こった出来事、あのことを思って悔やんで…っていうふうな、そういうこと。それを苦にするな、と。で、「今日けふが大切、先を樂しめ」。やっぱり「先を樂しめ」。これを見ると、「悪いことを言うて待つなよ」っていうのは、悪いことを言うて待つ、未来の話。で、「過ぎた悪いことを思い出して苦しめるな」「これ過去の話です。で、「今日こんにちが大切」。これ、今日けふ現在、今現在っていうことを意味しますね。

過去、未来、現在。話をしてるんですけど、でも、これもうちちょっとよく考えてみたら分かりますけど、「悪いことを言うて待つなよ」。これ待ってるのいつですか？悪いことっていうのは過去でしょう。でも「悪いことを言うて待つなよ」って、教祖様がお参りの方に仰っとるんです。

氏子うぢこに対してね、「あんな、悪いことを言つて待つなよ」って。「待つなよ」ってこれ、いつ待ってるんですか？今でしょ。今なんです。

「先を楽しめ」いつ先を楽しむんですか？今でしょ。今、先を楽しめと仰ってるんですね。悪いことを言つて今、待つなよ。今、先を楽しめ。

で、「過ぎたるいじつを思い出して苦をするな」過ぎたる悪いこと、これは過去の話ですけど、「苦をするな」と。これ、いつ苦をするなって言ってるんですか？これ、今でしょ。過ぎた悪いことを思い出して、今、苦にするな。今日こんにちが大切である。で、「先を楽しめ」。先を楽しめていつですか？今でしょ。今、先を楽しめ。悪いことを言つて、今、待つなよ。

今、先を楽しめ。過ぎた悪いことを思い出して、今、苦にするな。今日こんにちが

大切である。今、先を楽しめ。いろいろいいことです。

で、「今日」というのと、「今日」というのとありますよね。これ、「今日」というのと、「今日」というのと、ちょっと違いますよね。まあ細かく言うとな。元々「今日」っていう言葉が先でありまして、それから「今日」という言葉が出てきたというふうになわてますからね。

「今日」という言葉、例えば辞書で調べましょう。私も調べました、もう一度改めてね。「今過してゐる、この日。本日。こんにち」「…まあそうですね。普段私たちが意識してるのは、そういうことやと思います。その日と同じ日付や曜日の日。今日、今日、何日やったっけ？」っていろいろ

時の「今日」ってさうなのは、まあじつじつじつじつ。

「今日」ってなってるよ、ひとつは同じような意味合いで使われま
すね。で、もうひとつ違うのは「今の時代」。「今日の世界の情勢は」っ
て言ったらまあ、「今日の」っていうんではないですわね。「今日の」っ
て言ったら「今の時代」っていう意味になってきます。三つ目が「現在」。
「今」の現在ですね。「今日私があるのは、あなたのおかげです」って
いうふうに言った時の「今日」っていうのは、「今現在」っていうじつじつ。
「今日ーこんにち」っていう言葉が音の変化をして「今日ーきょう」と
いう言葉が生まれたとされてますけど。で、教祖様は、「今月今日」って
いう、やっぴの仰ってますねですわね。

ほんで「今日けふ」って言うのは、今言ったように、まさに「きょう」。本日。けふこの日けふって言う意味合いがありますけれども、これはもう「昨日きのう」、今日けふ、明日あしたという意味での「今日けふ」ですね。これが「今日けふ」。これがまあ言うたら、「今日けふ」の中のひとつの言葉で、ここだけが非常に強調されて「今日けふ—きょう」と言う言葉がでてるわけですけど。でも本当は、「今日けふ」って言うのは、「今の時代」とか、あるいは「現在、今現在、今の今」ですよ。この「瞬—瞬の今」、これを「今日—こんにち」って言うふうにして仰るわけですよ。そういう意味として残ってるわけです、元々は。

じゃあ、「こんげつこんじちが今月今日こんげつこんじちが」っていろいろのをもちよっと調べてみましょう。そしたら、金光教の用語辞典っていろいろがあるんですよ。ちよっと私も見たことがあるんです。で、「ああ、なるほどなあ」っていろいろにして思っ、ちよっと書き残してたことがあります。そこを見ましたらね、「こんげつこんじちが今月今日こんげつこんじちが」っていろいろのはどういふうにして解釈されてるかっていうと、「まねじまねじ、こんにち今日こんにち」の日の意い。まあそうですね、うん。「それが最も大切な改まった日ひ、吉日であることことを示す」と。「こんこうだいじん金光大神こんこうだいじん（教祖様）は、心を改めて神様に向かい願うのは、改まった特別な日柄ひがらということやなくって、今日こんにちいま現在いま、今の今いま、この瞬間が神様と共にあるんだから、いつでも今日こんにちこの日ひ、今願えいまねえ、今願いなさいということことを教えた」とい

らじゅう。

で、私、知らなかったんですけどね。背景というのがあって、大谷村の氏神様うじがみというのがあるんですよ。まあこの辺やったら、八幡神社はちまんが氏神様みたいなもんで、大谷村の氏神様かみっていうのが、賀茂神社かもっていうのがある。で、いっのお祭りの日、縁日えんいちですよ。お祭りの日には、宵よいからですから前日の夜からです。灯笼とうとうに、四角い木枠こまげじょうかに「今月今日」と書いた角灯笼を、神社に参る参拝道にずーっと置いてたっていうんですよ。たくさん並んでたっていう、そこに当然灯りを灯すわけです。だからこう、今のこうやってね、吊つってある灯笼みたいなもんで、置いてる灯笼みたいなもんですわね。それで四角う、木の枠でできたもんで、そ

ここには、今ここやったら八波の御紋やつなみ こもんがありますけれども、そこに
「いんげいひなにち今月今日」って書いた灯籠が神社にずらーっと、まあ言ったら参拝道
に並べてあったそうなんですよね。これがまあ、氏神様、賀茂神社。こ
れ、どういう意味かって言ったら、「いんげいひなにち今月今日」ってわざわざ書いてるっ
ていうのは、大谷村の人達が、普段の日常生活から離れて「あつひ今日この日、
神様と共に過すす日である」ということを意味して、それで「いんげいひなにち今月今日」
って紙に書かれたものが灯籠に書かれて、それが参拝道にずらーっと並
んでたと。それが昔からあったということなんでしようね。

年に一度の祝い、お祭り、あき吉日。そういいう日として「いんげいひなにち今月今日」。でも
他の日とは違ちがうんです。特別な日なんです。神様と共に過すすという、

それが「こんげつこんにちが今月今日」だった。つまり三百六十五日の一日とか二日とか、
そういう特別なその日のことを「こんげつこんにちが今月今日」というふうにして、氏神様
である、賀茂神社の所で灯籠が置かれていた。村の人達は、つまり人間
は、「きょう今日の日、神様と共に過す日ですよ」ということをしっかりと
お互いに意識して過す、その日のことを「こんげつこんにちが今月今日」っていうふう
に書かれてあった。もちろんそこから来てるわけですよ。教祖様はもち
ろん、大谷村の人ですから。

これを考えましたらね、本当であれば三百六十五日の一日だけ、まあ
今で言うたら、御大祭ごたいさいのその日のことを言ってるんです。それを
「こんげつこんにちが今月今日」と。それを教祖様は、三百六十五日のその一日だけ、御大

祭日だけではなくて、三百六十五日、もういつでもどこでも神様と共に生きるんだから、願うのであれば今月、今日、今現在、神様に心を向け
て神様に願いなさい、と。「今日願いなさい、今願いなさい。今こそ神様
と共に生きるべきなんや、今の今」ということを仰ってるんですね。

御大祭の日だけっていうんじゃない、今の今っていうことを言われる。
これが「今月今日」っていうふうにしてね、天地書附の中の短い文言の
中の、大きな、重要なお役になるわけですよね、今月今日の意味が。

これを先ほどのお話、み教え二つ、「悪いことを言うて待つなよ。先を
楽しめ」「過ぎたる悪いことを思い出して苦しな。今日が大切、先を楽

しめ「っていうことをもう一度解釈してみるとね、「悪いことを言っ
て今こんげつこんにちが今こんげつこんにちがただ今のこの現在を待つなよ。今こんげつこんにちが今きょう今きょう、今きょうの今きょう、今きょうの今きょう、
神様と共に先を楽しめ。過ぎた悪いことを思い出して今こんげつこんにちが今きょうの今きょう、
今きょうときょういうこのお日柄、今を苦にするなよ。今こんにちがが大切である。今きょうが大
事である。今の今きょう、今日きょうの今日きょう、これが神様と共に過すす、そのお日柄
なんだ、特別な日柄なんだ、ハシの日なんだ、今の今きょうが。今、神様と共
に生きて、先を楽しみなさい、今「っていうことを仰おほってるんですよ。
で、考えてみたらね、私たちにとっていよいよ大事なものは、これから
なんですよ。これからどうなっていくのかってという問題がある。タイ
ムマシンが今あるわけじゃないですから、そういうものとされていますか

ら、何年前に戻ってやり直すっていうことはもちろんできないわけですよね、ドラえもんの世界じゃありませんから。

そう思ったらもう、私たちが生きることができるといいうのは、過去に戻って生きることでもできないし、未来に行って生きるといいうこともできなくて、この肉体があるのはこの今現在っていう時間の、この瞬間瞬間しか生きることってできないですね。じゃあ過去に戻るっていうことはできない。過去を見るなって言うんじゃないんです。

じゃあどういふことかって言うたら、私はよく言うんですけどね、過去を振り返るのが悪いって言うてるんじゃない。過去を振り返ることが、今を大事にできるのであれば見たらいい、と。まあそれこそ、「思い出し

笑いしたらええ」とよう言います。こんなおかげ頂いたな、あんなおかげ頂いたなあ、ありがたいなっていうふうにして思い出して、今、それを楽しんだらええんです。今を大事にしたらそれでええんです。思い出し笑いって、思い出してんのは過去のことですけど、笑ってるのは今なんです。これなんですよね。先のことを、先は未来のことを、悪いことを言うて待つ、あんなことが起こるんちゃうか、こんなことが起こるんじゃないかっていうふうにして、悪いことを思っただけで、今を真っ暗にするようなことをしちゃうかん」と。

でも、未来のことを見るのが悪いわけじゃないんです。それが今に役立つのであればね。先のことを考えて、今楽しめるのであれば、今、

ワクワクできるのであれば、つまり、今を大事にできるのであればね。だったらいくら未来を見てもいいんですよ。何でも過去を見ちゃいかん、未来を見ちゃいかんっていうんじゃないです。過去を見て、今が生きるんであればいい。未来を見るのがダメっていうんじゃないくて、未来を見て、今が生きるんであれば、イキイキするんであれば、今見たらいいんです、未来の話を。

明日、どんなふうになるのかなあ。明日デートやなあ。明日遠足やなあ。そうやって考えて、今がワクワクすんのやったら、いくらでも考えたらええですわね。でもこれ、今を大事にしてるんです。今しか生きれませんから、人間は。過去だって、生きることなんて出来たことがない

し、未来だって生きることなんて出来ないんです。

未来というのは結局ね、一瞬一瞬の積み重ねなんです。今こうやって喋しゃべってるのは私、一瞬一瞬、今現在喋しゃべってるわけですよ。一秒前にも戻れないし、一秒先にも生きることが出来ないんです。今しか生きないこの瞬間この瞬間っていうの、今現在です。

今いま今いまただ今いま、この今の時間ですよ。じゃあ、例えば三分後、五分後、一時間後って言うてもね、私のこの流れてる一瞬一瞬っていう時間の積み重ねなんです。一瞬一瞬をどんどんどんどん積み重ねて、そして三分後ができるし五分後ができるし、一時間後、一日後、一ヶ月後、一年後、三年後、五年後、十年後、百年後ってこれ、一瞬一瞬の積み重

が未来なんですから、そら、いいものになって行くでしょうね。

神様と共に今を生きて、神様に先のごことは今お願いして、先のごことは今楽しみにして、今を嬉しく楽しく有り難くを心がけて、意識して稽古して、今を生きていくんです。いつ生きるんですか？今でしょ。今日というお日柄、賀茂神社のお祭り日「こんげつこんじち」今月今日「こんげつこんじち」って書かれた、この天地書附「てんちかきつけ」の元の部分って言うたら、そういうことでしょう。お祭り日、年に一度のお祭り日。その日はかりは神様に、共に生きる日。教祖様は違う。その日だけじゃないんや。あとは好き勝手生きていいわけでもないし、神様と離れて生きるんじゃない。まさにそのお日柄、その生き方を、人間というのは本来、天地の間に生かされてる人間は、三百六十五日二十四

時間一分一秒、この瞬間瞬間を神様と共に生きるとというのが人間本来の生き方である、人間らしい生き方である。それこそが信心であるということを抑った。だから、「今、生きる」「今、生きる」って、ものすごいね、積極的に非常にこう、何と言うか表現がちょっとあれですけど、攻撃的って言いますかね。もう「今」なんや、「今」信心せい。「今」生きる、神様と共に。今しかない。いつから？先のことじゃない、過去の話じゃない、今や。今、信心しい。今、共に生きる。神と共に生きる。今願え、という抑を仰る。ものすごく積極的な意味ですよね。今月今日、このまじつこのひ今しかない。で、その今を神様に願って、神様と共に生きる。いんげん金光太神様と共に生きる。こ理解を頂いて、心にかけて生きていく。

その一瞬一瞬の積み重ね、たとえ今、苦しい状況、大変な状況、難儀があつたとしても、その一瞬一瞬を神様と共に生きていくという中、神様に願いながら神様にお礼申しながら、お礼っていうのは考えたら過去の話なんですね。過去の話をおかげ頂いたことを、今、お礼申し上げます。今、喜んでいく。

お願いっていうのはこれ、全部先の話で、これ裏返したら不安なんです、こんなのはね。それを、おかげ頂くかどうか分からんような不安を、心配を、神様に預けて「神様おかげにして下さい」と、今生きるんです。未来に生きてるんじゃない、今、生きるんです。だって、今が大事だか

ら。だって今という瞬間でしか、未来は形作れないんですから。一時間後でも、一年後でも、それを紐解いてひもとごらんなさいよ。未来というのは所詮は袋に過ぎません。袋の中をパツて開いてみたらそれは、一瞬一瞬の積み重ねがざっくり入ってるだけの話です。じゃその一瞬一瞬、どう生きて来たのが結局、未来を決めるわけでしょう。袋の中身は一瞬一瞬、その時その時の一瞬一瞬。その瞬間瞬間を、神様と共に金光大神様と共に、つまり「生神金光大神いきがみこんこうだいじん 天地金乃神てんちかねのかみ 一心ねがえに願」と、ここの部分ですね。

生神金光大神様の御取次おんとりつぎを頂いて、み教えを頂いて、お祈り添えを頂いて、それを心にかけて胸に抱いて、天地金乃神様に向かっていく、神

様と共に生きる。一心に願う！そういう一瞬一瞬が、未来という袋、一時間後でも一日後でも一年後でも。一年後という袋を、あったとしてもそれを紐解いて中を覗いてみたら、三百六十五日の一年間の、二十四時間の、一分一秒の、一瞬一瞬の積み重ねがずらーっとそこに並べてあるはずなんです。中にざっくり入ってるはずなんですよね。それがその時心配や不安で、今が負けて、今がどうにもならんというだけになってしまったら、不安心配不安心配どうにもならん、立ち行かんその一瞬一瞬が積み重ねやったら、未来の袋をパッと開けたところだって、どうしたって上手いこと行かないじゃないですか。お菓子の袋をカパッと開けて、ざらざらーっとぶちまけんのと一緒にですよ。何が出てくるんですか。一

瞬一瞬じゃないですか、その時の。「その時一瞬一瞬、神様と共に生きてるんか、お前は」と教祖様は仰る。「一瞬一瞬、いそひのいそひ今月今日、神様と共に生きてたんかお前は。ちゃんと信心してたんか」ってなってくるんですよ、これ。そういうことでしょうか？そういうことじゃないですか、信心。そこを教祖様は、参ってきた人に仰るわけですよ。

きねんきとう 祈念祈禱するんじゃない。お前が、あなたが、神様と共に生きなさい。

今、お礼を申すべきところを申し、今、願うべきところをお願い申し上げます。心配、不安を神様に預けて。今を大事に。だって今しかないんだから。未来のことを願っても、未来というのは今の一瞬だから、今が大事や。今どう生きるのか。神様と共に生きる。こんげつこんにち 今月今日、ただ今、この

日。そこを大事にして教祖様はご理解なされた。

まあ神前撤去しんぜんてつぎよとかね、教祖様も大変なところがあって、拝むことでも

きんし、理解申すこともできないような、そういうふうな状況になった。

そんな中でも「天地書附てんちかきつけ」というものが出来上がり、そしてそれをお

参りされた方に託たくしていく。お下げになる。そこまでして、その究極の

状況にして、それを神様が下げて教祖様が下げられたという「こんげつこんにち今月今日」。

この「こんげつこんにち今月今日」というのが本当に大事になる。これ今の今、まさにそ

の日。先じゃない、今なんだ。未来じゃない、今なんだ。そう、だから

今が大事になってくるんですよね。

今、神様と一緒に生きてくれ、今、神様と共にいるんだ。そこを意識

していくというところが、神様と共に生きるということ。信心生活、神と人あいよかけよ、まあ全部繋がってきますよね。繋がってくるんやなあと思います。

今日は今日で、令和三年一月五日をお迎えしておりますけれど、今日というこの一瞬一瞬、今、ここからでもそうなんですけれど、これからも、今の時間も一日一日の中の紐解いたら二十四時間、それを紐解いたら一時間が六十分、六十分紐解いたらまた一分。一分を紐解いたら一秒。そうやって一瞬一瞬があるわけですから、その時その時神様と一緒に過ごす、生きるということを大事にさしてもらいたい。そうしたら、い



津田昇平教話 第五話

令和三年一月五日 朝の教話

令和三年十二月二十八日 初版発行

発行所 金光教尼崎教会

〒六六〇―〇八九二

兵庫県尼崎市東難波町三―七―五
